

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	此花区
学校名	西九条小学校
学校長名	柳川 和代

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西九条小学校では、第6学年 80名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

<p>1. 平均正答率について</p> <p>語⇒大阪市より－7 pt下回り、全国より－8. 8 pt下回った。 →大阪市より－4 pt下回り、全国より－4 pt下回った。</p> <p>*理科⇒大阪市より－5 pt下回り、全国より－7. 1 pt下回った。</p> <p>平均無解答率について</p> <p>阪市より+0. 9 pt上回り、全国より+0. 4 pt上回った。 より－1 pt下回り、全国より－1. 3 pt下回った。 －0. 6 pt下回り、全国より－0. 4 pt下回った。</p>	<p>*国 *算数⇒</p> <p>2. 平 *国語⇒大 *算数⇒大阪市 *理科⇒大阪市より</p>
---	--

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

<p>[国語]</p> <p>や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることは、比較的できている。</p> <p>見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選んだりするとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができない。</p>	<p>・話 ・書くことを ・伝えたいことを明確にすることができない。</p>
<p>[算数]</p> <p>形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力がついていない。また、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方や言葉を用いて記述することができない。</p>	<p>・図 ・計算する力 ・見いだし、知りたい数量の大きさの求め方や言葉を用いて記述することができない。</p>
<p>[理科]</p> <p>「エネルギー」を柱とする問題では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が見についていない。</p>	<p>・知識 ・見についていない。</p>

質問調査より

<p>・児童の「自己肯定感」はぐくむ場として、児童会活動を中心として取り組んでいる。自分の意見を発信し、仲間と協力して行事などを作り上げる経験が、児童の自信と達成感につながる。また、朝の会や帰りの会、学級活動後では、「自分ができた事」「仲間の良かった所」を共有する時間を設けている。</p> <p>・道徳の授業では、道徳ノートを活用し、自分の考えや気持ちを記録し、振り返ることで自己理解を深めている。</p> <p>・ICTの活用に関しては、授業改善や個別支援、協働学習など多様な取組を行っている。大型テレビで動画や資料を提示し理解を促進したり、グループでの話し合いや発表のツールとして、効果的な授業展開を工夫している。</p>
--

今後の取組(アクションプラン)

<p>・教員の授業力向上を図るとともに、児童の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を通して、児童にきめ細やかな指導・支援を行っていく。</p> <p>・ICT活用を「学びの質を高める手段」として、教員の研修や教材開発に取り組んでいく。また、授業においては、教科ごとの理解を深めるためのツールとして多様に活用していく。</p> <p>・自己肯定感をはぐくむ児童会活動として、「役割を持つことで『自分は必要とされている』と感じる取組」、「仲間との協働で『自分の力が役立った』と感じる取組」、「発表や話し合いで『自分の考えを伝える力』が育つ取組」を行っていく。その中で、自己理解の深化や社会的スキルの向上、学級・学校への帰属意識の高まりをねらいとしていく。また、児童会活動が児童の「心の成長」を支える大切な教育の場であると捉え、自己肯定感を高める豊かな学びとして校内全体で進めていく。</p>
--

